

句会出席 柿崎忠彦 久米五郎太 後藤とみ子 在間千恵 佐藤ただしげ 豊田ゆたか

西澤國護 古田昇 星田啓子

投句・選句 熊谷くにお 小早健介 高橋康敏 田島正己 土谷堂哉 福島正明 古川百合子

山崎亜也 山田けい子 山内天牛 渡邊盛雄

選句のみ 伊賀山そらお、梅崎くすを 重枝孝岳 庄司龍平 高橋清子 橋口隆 早川允章

山本三恵



【互選句】 選者欄(括弧)内の○は 選者の「天」

九点

気負はずに送る余生や草の花 昇 (く・と・孝・ゆ・康・己・正・百・○盛)

八点

落鮎や水の郡上の火の匂い けい子 (く・五・康・己・允・昇・啓・亜)

七点

コスモスの群れ咲くところ風生まる 康敏 (く・千・孝・龍・允・○正・け)

炎立ち飛び火しさうな曼殊沙華 昇 (千・龍・た・ゆ・允・け・天)

しなやかに差す手引く足風の盆 全 (○くす・た・孝・清・堂・允・啓)

六点

衣被ぎスルリと剥けた白い肌 忠彦 (そ・た・允・百・昇・亜)

ありがたう今なら言へる秋彼岸 とみ子 (そ・くす・清・堂・百・昇)

蟋蟀と共寝のよるの静けさや 百合子 (そ・健・と・○孝・○隆・盛)

露を置く細き葉先の小宇宙 啓子 (くす・五・孝・清・康・○昇)

五点

補陀落の海大き月昇りけり 康敏 (○そ・○健・と・己・三)

新豆腐味も形も四角なり 健介 (千・亜・三・天・盛)

今生の別れを告ぐる秋の蟬 昇 (そ・くす・く・た・亜)

四点

額装の色鉛筆画秋日差 五郎太 (清・康・○己・啓)

秋扇妻の不調を友ぼつり 堂哉 (くす・隆・百・盛)

湿原に空を映して沢桔梗 啓子 (く・五・○と・己)

朝刊をとれば芙蓉の花一輪 天牛 (千・堂・國・亜)

鬼やんま野面川面のホバリング
列をなすドーナツ店や秋暑し
つんつんと日に日に紫蘇の穂の伸びる
負けて知る綱の重さや男郎花

啓子 (昇)
全 (正)
天牛 (啓)
盛雄 (堂)



【句 評・短 評】

九点

気負はずに送る余生や草の花

昇

とみ子さん・・・同感です。

ゆたかさん・・・私も同じ状況です

百合子さん・・・私の余生もこのような心境で送りたいです。

康敏さん・・・「草の花」は秋の季語。作者はやがて枯れ行く秋草の花に、思いを重ねた。

(参考：がんばるわなんて言うなよ草の花 坪内稔典)

盛雄さん・・・青葉会諸兄姉の本音を代表する作品。

八点

落鮎や水の郡上の火の匂い

けい子

五郎太さん・・・郡上踊りの時は食べられませんでした。火の匂いが良いですね。

康敏さん・・・郡上の鮎料理は有名。特に産卵のため川を下る落鮎の味は格別だ。

(参考：鮎落ちて静けさもどる郡上かな 伊東宏晃)

亜也さん・・・水と火の対比に加えて、篝火を嗅覚で捉える巧み。

七点

コスモスの群れ咲くところ風生まる

康敏

千恵さん・・・コスモスとくれば風と少し平凡な取り合わせ感もありますが、その風景はやはり爽や

かな気持ちの良い風景が目には浮かびます。

正明さん・・・爽やかで結構です

炎立ち飛び火しさうな曼殊沙華

昇

千恵さん・・・この花つて炎が立ち上がっているよう見えなくてもいいですね、その形。「飛び火

しさうな」が良かったです。

ただしげさん・真っ赤な花の表現が面白い

ゆたかさん・・・花の咲く様子が見事に表現されています。

天牛さん・・・曼殊沙華の朱（あか）を飛び火とはうまいですね。

しなやかに差す手引く足風の盆

昇

ただしげさん・静かに踊る風の盆様子が中七で感じられる。

堂哉さん・・・踊りの列が目には浮かびます。

啓子さん・・・中七で踊り手たちの揃った動きが可視化され、句自体のリズムが尚、踊りの表現を
より軽やかにしているように思います。

六点

衣被ぎスルリと剥けた白い肌

忠彦

ただしげさん・お芋さんとは言え表現が艶めかしい

亜也さん・・・ちよつとエロティックな措辞が魅力なるも、類句があつたような：

百合子さん・・・ちよつとなまめかしくもあり！

ありがたう今なら言へる秋彼岸

とみ子

百合子さん・・・ご夫婦でしょうね。それとも親子でしょうか。

蟋蟀と共寝のよるの静けさや

百合子

とみ子さん・・・静かな夜に、人も蟋蟀も共に生きていると感じられたのでしょうか。

孝岳さん・・・静かな夜に蟋蟀の鳴き声を聞くと寂しくて秋の風情がしみじみと感ぜられる。

隆さん・・・作者は女の方でしょうか。色気が漂うと思うのは深読みでしょうか。

盛雄さん・・・親しみ深いこおろぎの鳴き声と共寝とは豊かな心の俳人の一句

露を置く細き葉先の小宇宙

啓子

五郎太さん・・・小宇宙で決まりました。

康敏さん・・・周りの景色を歪んで映す、葉先に結んだ露の玉に小宇宙を見た感性。

昇さん・・・絵画や映像を見ているような繊細な秀句。細い葉先が直ぐ消える儚い露をよく言い表しています。又、小宇宙が何ともドラマチックで良いですね。

五点

補陀落の海大き月昇りけり

康敏

健介さん・・・補陀落へ渡海するとき、煌々たる月に見守られたいですね

新豆腐味も形も四角なり

健介

千恵さん・・・新豆で作る豆腐は形は四角なだけで味はまるやかで角張つてないと期待してたけれどまだそうではなかった？？？

亜也さん・・・形が四角は当たり前。味を四角としたのが新鮮さを際立たせて絶妙。

天牛さん・・・青葉会にもりっぱな俳人が揃っていますね。上手い句ですね。

今生の別れを告ぐる秋の蟬

昇

ただしげさん・蟬の寿命の短いことを秋にかけて上手に表現している。

亜也さん・・・大袈裟なようでいて、厳然たる事実。

四点

額装の色鉛筆画秋日差

五郎太

正己さん・・・穏やかに流れる秋の一時。本当にリラックスできる時間が欲しいものです。

康敏さん・・・プレバドの色鉛筆画のリアルな表現には感心させられる。額に入れて飾りたい。

秋扇妻の不調を友ぼつり

堂哉

隆さん・・・「秋扇妻の不調を呟けり」としても「友ぼつり」を表現できそう。秋扇が効く。

百合子さん・・・“友ぼつり”にあの笠智衆の姿が浮かびました。

盛雄さん・・・重くない病でありますように・・・

湿原に空を映して沢桔梗

啓子

五郎太さん・・・すつきりと上手く景色を詠われました。

とみ子さん・・・「空を映して」が、秋の景を美しく見せてくれます。

朝刊をとれば芙蓉の花一輪

天牛

堂哉さん・・・私も毎朝紅蜀葵が咲いているのを見付けるのが楽しみでした。もうシーズンが終わり寂しいです

亜也さん・・・一日花と知ればなおさらの瑞々しさ。

三点

大鯨の顎の化石や秋澄めり

くにお

五郎太さん・・・珍しい化石、季語とよくあっています。

啓子さん・・・大鯨の顎の骨は大きく口を開いて獲物を捕獲するため、魚類としては特殊な骨格だそう。ようやく猛暑が過ぎて涼やかな風はなぜか学習意欲を齎します。ゆつくりと化石を見る機会が訪れたのでしょうか。

二人ともカンパリ頼む老人の日

五郎太

とみ子さん・・・素敵な老人の日ですね。

鳥人の跳びは異次元秋高し

健介

とみ子さん・・・世界陸上の会場の歓声が、よみがえります。

千恵さん・・・東京オリンピックを思い出しました。古い!!! 金髪なびかせて長時間の死闘の末跳んだ5m10cmが忘れられません。人類はどこまで跳べるのでしょうか？

堂哉さん・・・国際陸上は大変面白かったですね

夜を覚めて文したためるちちろ虫

とみ子

啓子さん・・・夜が長くなってきた一夜、ふと目覚めると、あら、今度は眠れない。そうだしつとご無沙汰している兄様に様子を聴いてみようか、筆を執ると夜のしじまは深く、蟋蟀の声が低く高く聞こえてきます。

ベランダに竹刀振る影星月夜

正己

啓子さん・・・ベランダでお子さんでしょうか、剣道のお稽古から帰ってお夕飯のあと竹刀を振っているその影が映るほど、今日は月が煌々と明るく、星も遠くによく見える涼やかな夜。その影を見ている作者。愛情が感じられます。

※康敏さん・・・「ベランダ」(夏)と「星月夜」の季重なりです。

デリバリー敬老の日の栗ごはん

正明

隆さん・・・私も「栗ごはん」を食べたい。

天牛さん・・・何かデリバリーが効いて五言、いい句ですね。

赤とんぼ里の夕べを惜しむかに

昇

ただしげさん・・・のどかな山里の風景が浮かびます。

ゆたかさん・・・里の夕べが懐かしいです。

四年振り食指動くや秋刀魚肥ゆ

亜也

ゆたかさん・・・今年の秋刀魚は肥えています 私も賞味しました

蚯蚓鳴く柱時計の針正す

とみ子

康敏さん・・・土中より聞こえる虫の声と踏み台に乗り柱時計の針の修正、微妙にバランスが取れている。

百合子さん・・・「あつ、そうだ」と言いながら踏み台にのる姿が・・・

三恵さん・・・以前当句会にて「亀鳴く」という春の季語を知りました。秋はやはり虫ですね。前回同様に空想の世界に「風情」を想起させる日本人の独特な感性と、あわせて今回は柱時計というまたレトロなアイテムとの演出で、俳句が単なる事実の羅列でないことを、

あらためて実感しつつ堪能しております。

再開の能登の朝市秋なすび

けい子

天牛さん・・・秋なすびで、能登の人達に対する心がこもっていますね。

恵贈の句集披くや秋来たる

亜也

五郎太さん・・・新しい句集、おめでとうございます。

二点

手をかざし触れんばかりの星月夜

忠彦

龍平さん・・・「なんと言う贅 華やかさ」

運転を辞めると決めた敬老の日

忠彦

隆さん・・・亡き母は八十半ば、カブに乗り見通しのいい交差点で赤信号を通過した。

これで免許返上を決意した。祭日「敬老の日」も動機になる。「敬老日」と詠む方が
意気込みを感じるが。

画材屋の手際の良さと秋の昼

五郎太

亜也さん・・・画材屋と秋の昼の取合わせがいい。もともと、手際の良い向きは他にもいろいろ居そ
う。

天牛さん・・・芸術の秋ですね。画材屋も忙しいでしょう。

観劇の歌の余韻や良夜なり

千恵

ゆたかさん・・・歌の余韻という表現が良いです

久しぶり酒の肴は焼秋刀魚

ただしげ

隆さん・・・さては、医者のお許しが出たか。垂涎の秋刀魚焼き。

雨の後耳を澄ませば虫の声

ただしげ

龍平さん・・・「秋立ちぬ」か 「秋聴こゆ」か とにかく・・・

一点

月見ればアンパンマンを思い出す

忠彦

隆さん・・・天真爛漫な作者ですね。素晴らしい。

パソコンに返事まだ来ぬ虫の声

五郎太

康敏さん・・・メールの返事が来ないのでイライラしている。庭の虫の声に耳を傾けると落ち着いて
来た。

夏長し疲れ癒さんチョコパフェ

とみ子

盛雄さん・・・やつと猛暑から解放された気分がよく伝わってきます。下五がうれしい。

涼新たネットで借りる旅の本

とみ子

千恵さん・・・気候も良くなつて来たしそろそろ旅心がむくむくと。。

行き違ふ若きをのこの香のさやか

千恵

百合子さん・・・この経験あります！ 私は思わず振り返ってしまいました。

曼珠沙華腹出しの子は見当たらず

康敏

昇さん・・・金子兜太の追悼句。「曼珠沙華どれも腹出し秩父の子」の句を想起します。昔、曼珠
沙華の咲き誇る秩父の山峡には天真爛漫に腹を出して遊ぶ子供が沢山居たそうで
す。今はその姿は見掛けません。そして兜太も居ません。

※康敏さん・・・自句自解…金子兜太の代表作「曼珠沙華だれも腹出し秩父の子」(昭和二作)の
パロディ(令和版)です。

長旅を控え静もる秋の蝶

堂哉

五郎太さん・・・どこまで飛ぶつもりなのか？韃靼海峡を飛ぶという短詩もあります。

秋澄むやカランコロんと下駄の音

啓子

天牛さん・・・下駄の音が澄んだ空気を一層引き立たせますね。

負けて知る綱の重さや男郎花

盛雄

堂哉さん・・・今場所は二人共頑張つて盛り上げました

~~~~~

## 【次回及び今後の予定】

**今年もすでに十月。年末にかかりますので、十二月の日程が変わります。ご注意ください。**

### ① 次回青葉会 十月

十月二十三日（木）午後一時～ 場所：世田谷区施設 三軒茶屋 しやれなあど6階

※投句締め切り 十月十八日（土）中

選句表配布 十月二十三日（木） 選句締め切り 十一月三日（月）中

### ② 次々回 十一月

十一月二十七日（木）午後一時～ 場所：世田谷区施設 三軒茶屋 しやれなあど6階

※投句締め切り 十一月二十二日（土）中

選句表配布 十一月二十七日（木） 選句締め切り 十二月六日（土）中

### ③ 十二月青葉会は、今年最後の句会です。そのため**第三木曜日となり、句会後忘年会開催**

**十二月十八日（木）**午後一時～ 場所：世田谷区施設 三軒茶屋 しやれなあど6階

※句会終了後午後四時半から「忘年会」開催。場所：銀座アスター三軒茶屋賓館。

当日は 忘年会ご参加の方には一万円を申し受けます。

※投句締め切り 十二月十三日（土）中

選句配布 十二月十八日（木） 選句締め切り 令和八年一月四日（日）

~~~~~

【青葉会報】

一、九月句会は、8月より孤舟選者がお怪我のため、しばらくお休みとのお知らせから、選者不在の句会となりました。一方久しぶりにお体調を整えられてとみ子さんがご出席。女性がお一方増えるだけで雰囲気柔らかくなるのはそのお人柄でしょうか。猛暑の時とは少し異なり気分も秋、みなさまのご出句されたものも、流石に秋。皆様お久しぶりでもあり、時に涼しい風を感じる空気の中で気分さわやかに句会に臨んで居られました。

五郎太さんの披講司会のもと、結果は、ご覧の通り前回に引きいての昇さんが好調の9点、続いて、けい子さん、昇さんの8点、そこにまた昇さん、康敏さんの7点。入られた点数を見ると広く採られ、秋への思いが様々な角度から捉えられたものか、と感じられる分布となりました。

二、孤舟選者は選者としての選句が今月十月句会から復活となります。お怪我をされて暫くお休みとのお知らせから、今月十月初めにご連絡をいただき、ただいまはリハビリ病院にてリハビリに「元気で」励んでおられる由、併せ十月以降の句会における、選

句だけになるものの十句の選及び句評をお願いできることとなりました。お電話のお声はしっかりとお元気で大変安心致しました。なかなか句会場までお越しいただくことは難しいながら、いつかを期待して一日も早いご回復をとお祈り致します。

三、この句会報をご覧になりながら、今井紀久男さんのご様子は如何とご心配いただいている方も居られるように思います。4月にご入院された病院から、9月の初旬にはリハビリ病院に移られたそうです。ご家族様からのお話を漏れ聞きますと、今はお元気でリハビリに励んでおられる、とのこと、青葉会の皆の心配を聞くと「お、そうか、皆によりしく伝えてくれ」とご伝言があつたと伺います。お気持ちには落ち着いておられる様子で、しばらく現在の病院で過ごしになるようです。これまでご無理して来られたお身体をしっかりと休めて、同時に、動くに少しでもお楽になるよう、ゆつくりリハビリを受けていただきたいと会員の皆様と一緒に願っております。

四、【関係者近詠】

自転車で転ぶ宗匠曼殊沙華
待ちわびし秋の気配や暦見る

天牛
盛雄



「聖霊を受けよ」白百合揺れてをり
聖餐パンのグルテンフリー青葉光
モルヒネと外出の許可濃紫陽花
出番減るハンカチなれど贈り合ふ
長男の不在地主に田植えの課
縄文の丘すべり鳴く練雲雀
野あやめの濃紫なる山の寺
田植機を隅々洗ひ帰る子よ
顔れて薔薇とも見えずなほ香る
跣で歩く老いの一里や九十九里
生き物の息する穴や浜涼し
あまりにも帰路十葉の白きかな
色日傘まはせば晴るるほどの鬱
淋しめり浴衣見立つるひと無きを
青葉雨書架に悪書の二三冊
きらら虫追うて逃せし中の指
大過無き一世嗤へば五月晴
逆さ筑波抱いてあやしてゐる代田
覗き見のわたしは他人サングラス

眞希子

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

全

——「森の座」九月号 横澤放川（日経俳壇選者）選——

令和七年十月十日

（了）